

新潟県立 文書館だより 第 7 号

平成17年10月13日

——— 新たに閲覧可能となった文書等 (16.7~17.9) ———

	請求記号	文 書 群 名 (関係地名)	年 代	点数	備 考
複 製	C F 4	佐渡国 ^{あわび} 蛸 村 名主本問惣左衛門家文書 (佐渡市)	慶安 3 ~ 昭和62	1732	56分冊
	C F 1 0	三島郡荒巻村庄屋阿部家文書 (和島村)	延享 3 ~ 明治22	1268	70分冊
	C F 4 3	越後やすり工業組合文書	昭和34~42	15	2 分冊
	CE0309	明治期日刊紙「新潟日報」	明治37	50	2 分冊
受 贈 受 託 等	E 9 3 0 3	西頸城郡糸魚川町磯野家旧蔵刊行物 (糸魚川市)	享保14~昭和39	786	再整理
	E 9 3 1 2	元高校教員中野二三郎氏旧蔵国文学郷土史関係刊行物	近世後期~平成 6	521	再整理
	E 9 4 0 3	中頸城郡柿野新田医家竹田家文書 (上越市頸城区)	享保14~明治17	532	再整理
	E 9 5 0 1	南魚沼郡六日町医家平賀家文書 (南魚沼市)	正徳 5 ~ 昭和55	3416	
	E 9 5 0 7	中頸城郡内ほか近世文書 (上越市、糸魚川市)	延宝 9 ~ 明治39	129	再整理
	E 9 7 0 5	佐渡国梅津村市橋家文書 (佐渡市)	延宝 2 ~ 昭和27	1639	再整理
	E 9 9 1 5	西頸城郡楨村近世近代文書 (糸魚川市)	元文元~明治35	228	再整理
	E 0 2 0 5	魚沼郡及頸城郡内各地近世文書 (上越市、十日町市)	延宝 5 ~ 明治 5	95	
	E 0 2 1 2	中魚沼郡 ^{やち} 谷内村文書 (津南町)	寛政 3 ~ 明治 2	21	
	E 0 2 1 3	佐渡国安養寺村大蔵家文書 (佐渡市)	(慶長 5) ~ 昭和27	1512	
	E 0 3 0 2	東頸城郡 ^{かいろう} 海老村文書 (十日町市)	宝暦 4 ~ 明治22	66	
	E 0 3 0 3	中魚沼郡 ^{ほうきゅう} 豊久 新田文書ほか (小千谷市ほか)	宝永 5 ~ 明治3	17	
	E 0 3 1 0	中魚沼郡^{あぶさか}南鐙坂村庄屋保坂家文書 (十日町市)	天和 2 ~ 昭和19	3008	再整理
	E 0 4 1 1	北魚沼郡^{したぐら}下倉村文書 (魚沼市)	元禄 7 ~ 大正 6	209	
	E 0 5 0 3	北蒲原郡赤谷村太田野原新田庄屋文書 (胎内市)	享保19~大正 5	419	
	F 8	中蒲原郡 ^{かみ} 上新田名主渡邊家文書 (新潟市)	延宝 8 ~ 昭和41	1894	
	F 2 7	信濃川下流域実測図	明治16~明治末	135	河川図
	F 3 3	信濃川流域実測図	明治17~明治40	49	河川図
	F 4 5	西蒲原郡角田浜村大越家文書ほか(新潟市、寺泊町)	嘉永 7 ~ 昭和30	164	再整理
	F 6 8	北蒲原郡濁川新田真島家文書 (新潟市)	元禄15~昭和21	5150	
	F 7 1	北魚沼郡小千谷町藤巻家経営文書等 (小千谷市、十日町市)	寛保 2 ~ 昭和32	153	

※太字の文書は解説文があります。

● 平成15年度文書管理委任の状況

管理委任課	作成年代	点数
人 事 課	昭和38年～昭和51年	24
市 町 村 課	昭和38年～昭和43年	16
市町村合併支援課	昭和50年～昭和57年	4
管 財 課	昭和39年～昭和51年	17
環 境 対 策 課	昭和45年～昭和48年	4
林 政 課	昭和42年～昭和59年	16
農 地 管 理 課	昭和35年～昭和48年	16
農 地 計 画 課	昭和41年～昭和49年	57
農 村 環 境 課	平成2年～平成4年	5
道 路 建 設 課	昭和46年～昭和49年	46
河 川 管 理 課	昭和44年～昭和48年	12
港湾空港局東港開発課	昭和45年～昭和49年	16
病 院 局 総 務 課	昭和45年～昭和48年	9
選 挙 管 理 委 員 会	昭和44年～昭和52年	8
合 計		250

● 南魚沼郡六日町・平賀家文書

現南魚沼市（旧六日町）、3416点。

正徳5（1715）年～昭和55（1980）年

明治～昭和期に六日町で平賀医院を営んだ平賀家の家伝文書。

医院を創業した平賀台作は、弥彦明訓学校を経て東京の済世学舎で医学を学び、六日町病院勤務後、明治40年～昭和5年まで開業医として医療に従事、医院は長男洗一が継ぎ昭和末期まで経営にあたりました。台作の父平賀春庵（仙溪堂）も近世末から明治末期まで仙石村字柄沢（現南魚沼市・旧塩沢町）で漢方医を開業するかたわら薬を製造・販売し、取引先は上州にまで及んでいます。平賀家文書は、春庵時代からの医療と製薬・販売関係資料及び台作時代の平賀病院「金銭出入勘定帳」など病院関係資料が中心で、同家が3代にわたる開業医として地域医療に貢献した跡を様々な資料を通して知ることができます。

台作の妻・このは、六日町今成家出身で近世後期魚沼俳壇の指導者であった今成慮呂（喜左衛門）の子孫にあたり、同家文書中には、代々俳句を嗜んだ実家今成家の兄文平から受け継いだと思われる正岡子規の書簡や甥の隼一郎が新潟中学の先輩会津八一から受け取った葉書、今成家主宰の句会資料など同家にかかわる明治期俳句資料が含まれています。

また、弥彦や東京に遊学した台作や台作の母・梅

の親族である伊東・中沢家から春庵・梅夫妻にあてた明治期の書簡をはじめ、数多くの書簡類があります。なかでも、このが親しい女友達や実家今成家から受け取った明治後期の書簡、台作・この夫妻が大正期に長岡中学に在学する長男洗一に書き送った書簡や洗一が同窓の友人たちから受けた書簡などは、当時の人々の生活意識や家族・友人関係の有り様を生き生きと伝えてくれます。とくに、このを中心とする魚沼在住の若い女友達のグループが、学問・教養に示す旺盛な向上心や行動力、相互の活発な交流振りは、明治期の地方女性一般に抱く固定観念を一掃するほど、きわめて興味深いものがあります。

その他、洗一や妹はせ越が長岡中学や長岡高女で使用した教科書や「和同会雑誌」、洗一の子供たちが使用した教科書、地図や昭和初期の童謡や唱歌の楽譜類などがあります。

平成7年度熊本市平賀壯太氏寄贈。閲覧は原本のみ。
（請求記号 E9501）

● 中魚沼郡南鐙坂村・保坂家文書

現十日町市南鐙坂、3008点。

天和2（1682）年～昭和19（1944）年

南鐙坂は信濃川上流左岸に位置し、はじめ高田藩領、元和5（1619）年に福島正則領、同8（1622）年に幕府領、寛永元（1624）年に高田藩領、天和元（1681）年に幕府領、寛保2（1742）年に白河藩領、文政6（1823）年以降は桑名藩領でした。

3008点のうち近世文書が約2割、近代文書の多くは明治期のもので、そのほかは大正期が20～30点、昭和期が10点ほどです。

同家は幕末期に庄屋役に就きますが、それ以前に村役を務めていたかどうかはわかりません。明治期には戸長や村長などの公職を歴任し、地域の行政に大きな役割を果たしています。天和を始めとして寛政・享和・文化・万延の検地帳が揃っていて、文化年間の南鐙坂村・北鐙坂村の「村由緒書上帳」や「村高帳」なども見られます。しかし、村に関するものはそれほど多くなく、これらは庄屋役に就いたときに前役から引き継ぐという形で同家に伝わったものと思われます。

近世文書の多くは、質地証文や金子借用証文の類で、同家は宝暦・天明期以降に土地の集積を始めたようで、天保期以降は「田畑水入帳」がほとんど揃っています。このほかに、家に関するものとしては「香典帳」が残っているだけです。

明治期は戸長役場や村役場関係のものがほぼ揃っています。目立つところでは廃仏毀釈に係わると思

われる寺社関係のもの、また、学校関係のものとして、学校経費を始め就学者・不就学者の名簿、成績、試験問題などについて、徴兵関係では、徴兵適齢者名簿や徴兵忌避のための養子縁組届なども見られます。そのほか、租税や戸籍関係を始めとして、官有地とされた土地の民有地願い、河川敷の開発、道路や隧道整備、用水関係など多岐にわたっています。

珍しいものとしては、年号不明（明治前期か）だが、「渡船橋梁賃銭表（番号1705-6）」があり、十日町地域各河川の渡船賃や通行賃が記されていて、明治初年の交通の一端をうかがい知ることができます。

明治後期には、「用水割」「灌漑溜敷割」「共有地小作米受払帳」など村の経費割関係の文書が目立ち、また、神社の立て替えのためか境内の樹木伐採願いなども多く見られます。家に関わるものとしては、質地証文や借用金証文、また、小作関係の帳面もありますが、近世に比べてそれほど多くはありません。

平成15年度購入。閲覧は原本のみ。

（請求記号 E0310）

●北蒲原郡赤谷村太田野原新田庄屋文書

現胎内市（旧黒川村）太田野原、419点

享保19（1734）年～大正5（1916）年

太田野原新田は櫛形山系を横切る胎内川左岸の河岸段丘上に位置します。もと、赤谷村地先の原野で、34ヶ村入会地でしたが、天明5（1785）年に武州坂本村定右衛門が見立てて新田開発を行っています。寛政元（1789）年に3石余、翌年に6石余の検地を水原代官所より受けた無住の村で、はじめ幕府領、明治3（1870）年に黒川藩領となっています。

史料のほとんどは割付状と皆済目録で、赤谷村については定免と称する割付状が元文元（1736）年か



胎内川上流の眺望（平成17年6月撮影）
太田野原は写真右側

ら明治初年まで、太田野原新田は割付状と皆済目録が寛政元年から明治初年までほぼ揃っています。

また、享保19（1734）年の34ヶ村入会地取極、天明年間の新田開発関係や寛政元年と翌年の検地帳・関係絵図などがあり、新田成立の様子などうかがえます。明治期以降では、鳥坂神社境内の民有地引戻願いや国有地払下願い、同社の氏子札などがあります。

平成17年度購入。閲覧は原本のみ。

（請求記号 E0503）

●北魚沼郡下倉村文書

現魚沼市（旧堀之内町）、209点。

元禄7（1694）～大正6（1917）年

文書群は、近世文書が7割を占め、質地証文、地所争論関係、借用証文がまとまっています。検地帳、年貢割付など公的な文書はみられず、私的な文書群となっています。この文書群から特定の家文書とは推測し難いのですが、印判から判断して同一の者が関わった文書が多く残存しています。中でも文化・文政期の地所をめぐる争論に関する訴状や絵図が多くみられます。さらに争論の訴状、願書等の草稿が多く残されていて、一つの訴状を作成するにあたって、何度も推敲を重ねていたことが読みとれます。

平成16年度購入。閲覧は原本のみ。

（請求記号 E0411）

- ◆本号で紹介している文書等は、原則としていつでも閲覧ができます。詳細は閲覧室に備え付けの目録をご覧ください。
- ◆文書等の閲覧は、原本のみの場合は原本を、複製物があるときは、そちらをご利用いただけます。
- ◆平成16年4月から当館所蔵文書及び複製文書の一部について、閲覧請求記号が変更になりました。（閲覧手続き等は従来どおりです。）
- ◆取扱い上、特に注意が必要な形態の文書や、閲覧に際して一定の条件を付した文書については、閲覧用目録に「条件公開」の注記があり、別途手続きが必要です。
- ◆県内所在文書の複製物は、市町村別に分類して記号を付していますが、進行中の合併が一段落するまで従来そのままとします。
- ◆文書等の複写につきましては、郵便や電話等による依頼には添いかねますので、当館にお越しのうえ、所定の手続きによりお願いします。

● 文書館展示

6月14日(火)～8月7日(日)までの間、図書館閲覧室入口展示コーナーにおいて、「くらしのなかの古文書」と題する展示を行いました。

この展示は、県立文書館の業務を多くの皆さんに知ってもらうことを目的に毎年行っているもので、今回は、形式をかえながらも現在まで伝えられている人の一生にかかわるような文書を展示し、そのような身近な例を紹介し、歴史資料としての保管・保存の必要性を呼びかけています。



文書等の「現地保存」を考える



11月29日、小千谷市

中越大地震（平成16年10月23日午後5時56分発生）からやがて1年になろうとしています。

あの日、短時間に連続3回、足下からの大きな衝撃が小千谷市・古志郡・北魚沼郡西部を中心とした中越地域の広い範囲に甚大な被害を及ぼしました。

その中には、3か月前（7月13日～14日）に豪雨による大洪水の被害を受けた地域もあり、みな一瞬でそれまでの日常生活を奪われ、受け継いできた長い歴史もまた多くを失ったものと思いました。しかし、被災者のほとんどが不自由な生活を続けながらも故郷（ふるさと）の復興に強い希望を持っていることは、いろいろな場面で教えられました。

地震後、いち早く現地から所在確認調査の必要を訴えてきたのは、小千谷市文化財審議委員長や、当館が委嘱している中越地区担当調査員でした。まもなく新潟大学を事務局として資料救済ネットワークが立ち上がり、当館も参加して活動を始めました。

このような大規模災害に対して、自らの限界を痛感しながらも、多くの機関や個人が思いを一つにして協力できたのは、10年前の阪神淡路大震災の貴重な経験

が共有されていたからだと思います。地域を歩いてみて、想像を絶する被災状況の中でも先祖からの歴史を守り通した被災者・自治体がいかに多かったか、あの混乱の中で生活支援と同時にそれをやり遂げていたことを知って、計り知れない感動を覚えました。

即ち、私たちはもっと早い段階から積極的に歴史の保存を訴えてよかったのです。もちろん普段の啓発・普及は欠かせません。ただ、忘れてならないのは、先祖からのものだけでなく、今の私たち個人にとって大切な物も、同じ歴史の価値が潜んでいるはずだということ。次世代が受け継いだとき、よりはっきりとわかってもらえるでしょう。そして、それらは地域や私たちの家で作られ、地域や私たちの家の歩みを語りながら、日々の暮らしと同じところで保存・継承されていくもの、という感覚もまた脈々と受け継がれてゆくものだと思います。

それを歴史的に順当なことと考え、「現地保存」を訴えるならば、日常の保存環境（生活環境）を決定付けていくいくつかの絶対条件としての自然環境の理解が最初の課題となるはずですが。どのような地形・地質・気候なのか、少なくともそれらを知れば地域に最も適した、きめ細かな保存への心がけがより可能になるでしょう。また、災害への対策もより具体的にできると思います。

天災も人災も遭わなければそれにこしたことはありませんが、ないことを願いつつも、被災はせめて最小限に止められるように、普段から心の準備はしっかり培っておきたいものです。

編集・発行 新潟県立文書館

〒950-8602 新潟市女池南3丁目1番2号

TEL.025-284-6011 FAX.025-284-8737

H P <http://www.lalanet.gr.jp/npa/>

Eメール archives@mail.lalanet.gr.jp